

第4回京都府肝炎対策協議会 開催概要

1 日時

平成29年3月3日（金）午後2時～3時30分

2 場所

京都ガーデンパレス 桜の間

3 出席者（50音順・敬称略）

肝炎対策協議会委員 9名

安藤 えつ子	京都市保健福祉局保健衛生推進室保健医療課 母子保健・感染症予防担当課長
井口 珠実	向日市健康福祉部健康推進課 課長
小笠原 温美	井手町保健センター 所長、地域包括支援センター 所長
香川 恵造	一般社団法人京都府病院協会 副会長
北島 則子	公益社団法人京都府看護協会 第一副会長
田中 征一郎	京都肝炎友の会 世話人
友沢 明德	一般社団法人京都府薬剤師会 理事
中嶋 俊彰	京都府感染症対策委員会肝炎部会 会長、済生会京都府病院名誉院長
丸澤 宏之	京都大学医学部附属病院消化器内科 准教授

4 議題（報告事項、協議事項）

- 各分野別計画に掲げる取組及び数値目標について
- 肝炎治療に対する医療費助成等について
- 京都府保健医療計画に基づく肝炎対策について

5 概要

- 京都府保健医療計画における各分野別計画に掲げる取組状況について事務局の報告をもとに審議され、今回の意見を踏まえ取組を進めていくこととされた。【資料1】
- 肝炎治療受給者証審査件数及び治療薬の追加等に伴う肝炎治療における医療費助成の拡大等について事務局から報告された。【資料2】
- 京都府保健医療計画の見直しに基づく肝炎対策について、今後の進め方等について報告され、意見を踏まえ進めていくとされた。

6 主な意見

(1) 肝炎対策の取組状況について

(委員意見)

- ・本協議会資料については、事前に委員の手元に届くよう前回の協議会でもお願いし、当会からの資料も早くに京都府に提出したが、今回も配付は当日であった。

(京都府)

- ・事前の資料配付については、誤りの無いよう整えてからと思いつくようになったが、これからは未定稿の部分があっても、一部当日修正ある旨お断りした上で事前に送付するようしたい。

(委員意見)

- ・個別勧奨について、全市町村目標に対し、現在実施しているのは19市町村ということだが、未実施市町村はどこか。どのように働きかけをしているか。

(京都府)

- ・平成27年度に個別勧奨をしていない市町村は、京都市、福知山市、亀岡市、向日市、南丹市、笠置町、南山城村と把握している。
- ・市町村の担当者研修会等において、未実施の市町村には依頼しているところ。府でも引き続き目標達成に向け、働きかけを進めていく。

(委員意見)

- ・向日市は毎年個別勧奨を実施しており、しなかった年はないので、訂正願いたい。

(京都府)

- ・集計に誤りあり、大変申し訳ない。

(委員意見)

- ・重症化予防事業の検査費用申請件数を教えてほしい。また、申請については、手続きが煩雑な上、診断書など対象外経費を含めるとかえって持ち出しの方が多い。

(京都府)

- ・重症化予防についてはこの後説明する。(資料2)

(委員意見)

- ・肝炎医療コーディネーターについて、どのように考えるか。目標では200人を養成するとしているが、どう活用するつもりか。県がコーディネーターを養成し、活躍しているところもある。

(京都府)

- ・ウイルス検査や医療費助成について、まずは、市町村、保健所等の保健師が対応できるよう市町村担当者の研修会を実施しているところ。

(委員意見)

- ・京都府の肝炎対策のホームページ内の「肝疾患相談センター」のリンクがきれている。

(京都府)

- ・すぐに修正の上更新する。

(委員意見)

- ・京都府肝炎対策協議会の開催結果は早めにホームページへ掲載してほしい。また、年1回の開催だが、もっと多く開催する必要があるのではないか。

(京都府)

- ・開催結果については、これまでから委員へ内容確認を行った後、速やかに対応している。
- ・29年度は京都府保健医療計画の見直しがあるので複数回開催する必要がある。

(2) 肝炎治療に対する医療費助成等について

(委員意見)

- ・去年6月に核酸アナログの受給者証を更新申請した際、窓口の担当者が診断書を検査結果等に代えられることを知らなかった。改正内容を知っていたので、直接府に聞いてもらい、手続きできたが、よく知らずに診断書を書いている医師もいるのではないか。診断書が省略できることを周知徹底してほしい。
- ・重症化予防事業も制度が複雑なので、相談できる人材が必要なのではないか。

(委員意見)

- ・当院ではメディカルソーシャルワーカーが様々な相談に一番対応している。

(京都府)

- ・医療費助成制度、重症化予防事業とも十分伝わるよう広く周知に努めたい。

(委員意見)

- ・患者会も研修会に参加したい。肝炎医療コーディネーターの門戸を広げ、患者も相談対応できるようにしてほしい。

(京都府)

- ・国が近々肝炎医療コーディネーターの考え方を示すので、養成や活用を検討したい。

(委員意見)

- ・ハーボニー偽造品については、マスコミが取り上げたせいか、かえって治療のことが広まり、治療を受ける患者が増えた。
- ・マイナンバーはどこにでも提供することになるのか。

(京都府)

- ・マイナンバーを記載することによる申請書類省略については、今のところ平成29年7月から可能となる予定。受給者にはマイナンバー記載の利点を説明するが、記載するかしないかは申請者の選択による。個人情報の扱いには十分気をつける。

(委員意見)

- ・肝炎ウイルス検査の周知が必要。イベント会場へ出張して検査することはどうか。

(委員意見)

- ・新たに感染する機会は減ってきているので、ホームページや健康関連イベントで感染予防対策の一つとして、ウイルス検査を紹介するなど地道にやっていくことが必要。

(委員意見)

- ・出張検診は実施可能か。

(京都府)

- ・検査体制や効果など考察する必要あり、すぐに実現するのは難しい。

(委員意見)

- ・検査体制はどうか。どんな条件なら検査ができるか。

(京都府)

- ・採血という診療行為が可能か検討する必要がある。

(委員意見)

- ・当院が開催するイベントの一環でウイルス検査を企画したが、衛生面の問題で採血や医療行為ができないということで断念したことがある。

(委員意見)

- ・京都市の委託を受け肝炎ウイルス検査を実施している医療機関から、なかなか実績があがらないと聞いた。大きな企業では2割程度が肝炎ウイルス検査を実施していると聞く。
- ・肝炎ウイルス検査だけを受けることは難しいので、健康診断の採血と合わせ検査できるようなシステムを検討してはどうか。

(3) 京都府保健医療計画に基づく肝炎対策について

(委員意見)

- ・前回の保健医療計画策定時、当時の肝炎対策部会ワーキングチームは何回協議したか。

(京都府)

- ・3回開催。今回も同程度と考えている。事務局で案を示し、それを協議していきたい。
- ・保健医療計画、がん対策推進計画も改正するが、それらと委員を兼ねる委員もおられるので、開催にあたっては効率良く進めていきたい。

(4) その他

(委員意見)

- ・京都市からの情報提供だが、29年度より京都市内で肝炎ウイルス検査ができる医療機関を拡大し、夜間や土曜日も含め、時間を選んで検査が受けられるよう現在開催中の市会に諮っている。

(委員意見)

- ・検査機会が増えるのは喜ばしい。どれくらいの医療機関で検査が受けられるのか？

(京都市)

- ・現在、300機関程度に御協力いただける見通しである。

(委員意見)

- ・広報はどのようにするのか。効果的な広報が必要

(委員意見)

- ・多くの人がウイルス検査を受け、肝炎を見つけ治療に繋がることを期待する。

(委員意見)

- ・北部地域の肝疾患の相談ニーズはどうか。ニーズをふまえて治療が途中で止まらないようきちっと専門医につなぐことが大切。
- ・効果的な啓発方法を模索しながら手を替え品を替えやっていく必要がある。
- ・ずっと同じことをしてはやった評価が見えてこない。

(委員意見)

- ・難しいが、地道にやっていくしかない。

(委員意見)

- ・ハーボニー偽造品に関連して、会としても注意喚起した。
- ・健康サポート薬局としてのビジョンをもち、肝炎対策に取り組んでいきたい。

7 閉会